

# 仙台陣屋かわら版

第六十六号

(平成二十二年八月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: [jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp](mailto:jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp)  
〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-85-2666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

## 平成二十二年 陣屋資料館特別展 「絵図が伝えた漁場の営み」展が開幕

今年も、いよいよ仙台藩元陣屋資料館の特別展が開幕となります。かつての蝦夷地で営まれていた生活に迫るべく、魅力的な資料を集めてお送りします。

さて、幕藩体制下の大半で鎖国を貫いた徳川政権にとつて、四つの口(長崎口・松前口・対馬口・島津口)と呼ばれる貿易港から運び込まれる物資と情報は、海の外の様子を知るための貴重な資源でした。そのような状況下、政治的な事情、個人的な興味、或いは細やかな知識の獲得を目的とするなど、蝦夷地の姿は様々な思惑に支えられながら、記録として残されてきたのです。今回展示する絵画も、当時の記録者達が実際に眺め、或いは伝え聞いた内容を頼りに描いた重要な資料です。また、そうした資料を通じ、記録者である和人が蝦夷地をどのように捉えていたかを知る手掛かりにもなるでしょう。

それでは、来る七月二十四日(土)の開幕に

先立ち、展示資料の一点を簡単に紹介してみよう。『蝦夷風俗図会附蝦夷語解説加賀家伝蔵手録(函館市中央図書館蔵)』は、庄内藩(現秋田県)出身で根室場所の勤番を勤めた加賀伝蔵による一種のフィールドノートです。ここではアイヌ民族の風俗以外にも、縦網漁や地引網漁の様子が確認できます。また請負場所における、漁泊の作業風景まで描かれています。漁泊はその名の通り魚油の絞り粕ですが、肥料として輸出される、本州の農業を大いに発達させました。蝦夷地に関する風俗画の中でも、この場面まで書き及んだ絵図はかなり珍しいです。



〈ポスターも完成!! 異郷を思い浮かべ、  
「行ってみたい」と呟く浮世絵美人〉

ところがその一方で、例えば所々に源義経九郎判官の姿を書き込むなど、極端に空想的な絵図も含まれています。こうした様相を踏まえると、詳細に思える資料であっても、記録主の思惑を推し図らずにはいられなくなります。資料の裏に隠された、何か、こっそり、少し角度を変えて眺めてみるのも、面白いかもしれません。

特別展は八月十五日(日)まで開催。貴重にして興味深い資料の数々、是非とも間近でご覧になってください。お待ちしております。

## 陣屋の水は甘いのか? 夏の夜のお堀でホタルを探そう。どれだけ見つけられるかな?

夜の陣屋跡は結構不気味。闇夜に怪しく光るシカの瞳や、しじまを切り裂くキツネの叫び。一人で過ごすには少し勇気が必要ですが、皆で歩けば怖さも吹っ飛びます。満天の星空を仰ぎながら、ホタルを探しに行きましょう。

今年のホタル観察会は、八月六日(金)と七日(土)の二日間に行なわれます。かつて藩士達が陣屋を築いたとき、堀の水を満たしていた白老川の支流。現在ではほとんど流れていませんが、去年はここで三匹のホタルを見つけたことができました。夏の思い出作りに、ご家族で参加されてはいかがでしょうか。両日とも、陣屋資料館は九時まで開館しています。観察会が始まるまで、上述の特別展も合わせてご覧になれば、満足度も二倍になること請け合いです。虫刺され対策をお済ませのうえ、お気軽にご参加ください。

## 愛宕神社例大祭が行なわれました

六月二四日(木)陣屋東側の丘陵で、愛宕神社の例大祭が厳かに挙行されました。朝から小雨がそぼ降るなど、その開催が危惧されましたが、いざ例大祭が始まると、驚くことにピタリと雨が止みました。愛宕さんのご加護と、参列者の日頃の行いが影響したのでしょうか。

愛宕神社も年々整備が進められ、今年  
は傷んだ社の改築に  
加え、社前には新し  
い鳥居も再現されま  
した。鳥居はやや小  
さめの作り。参拝す  
る際は必ず頭を下げ  
なければならぬとい  
う小粋な計らいです。  
こうして一新された愛  
宕神社ですが、文久  
元(一八六



〈木漏れ日の降り注ぐ空間。時間もゆっくり流れます〉

二年六月二四日に藩士らにより寄進された石灯笼もきちんと現存しています。これを機に、皆さんも参拝されては如何でしょうか。なお、西側丘陵上の塩竈神社でも、例年通り八月九日(月)に宵宮祭が、十日(火)には例大祭が執行されます。

## 札幌から「教育旅行」を受け入れ

札幌市立発寒中学校の二年生が、六月二一日(月)、二二日(火)の日程で、白老へ教育旅行に訪れました。初日の職業体験では、二十四名の生徒が来館。子どもたちからは資料の扱い方などの質問があり、たくさんの選択肢から陣屋資料館

を選ぶだけあつて、学芸員という

仕事に深い興味があるのが伝わってきました。子供たちが博物館に興味をもってくれるのは、勤める職員としても嬉しい限りです。将来、博物館を担う学芸員になってくれる子が現れるのを楽しみにしています。



〈初の試みだった体験学習。来年も選んで貰えるよう、頑張ります〉

また今回の教育旅行のように、総合学習の取り組みが活発化していくことが予想されます。今回の事業は、受入れ先として魅力のある町という、白老の新たな一歩を踏み出したのではないかと考えています。

## 白老地域文化大学の活動から

六月十二日(土)資料館にて、中村齋学長を講師に迎え、第三八回白老地域文化大学講座「自分史のすすめ」平成二二年度歴史と文化のまちPR展示事業 白老地域文化大学卒業制作発表会に向けて」を実施しました。参加者は十五名。

同講座は、来年の三月に予定されている、歴史と文化のまちPR展示事業「白老地域文化大学卒業制作発表会」に向けたもの。自分史の編集を参考例に講演が行われました。

中村学長は自身の年表を用いるなど、自己の経験による記載内容例や手順例を挙げて、自分史の

書き方を説明。また「親の記録というのは子供にとって一番大事なものではないか」、「皆さんの歴史そのものが白老町の歴史である」、「白老町の全部の人の記録がしっかりと残されていることが大事であって、一つでも欠けていると後で大変なことになって調べようがない」と語り、自分史とは何か、その意義について講演してくださいました。聴講された学生からは、「自身のルーツを探りたい」という思いとびっぴり合った」などの感想が寄せられました。

卒業制作は大変ですが、皆さんが自分自身でまとめるという作業自体が、最も大きな白老町のPRに繋がりますので、取り組みのほど宜しくお願いします。

☆八月十日(火)は「陣屋の日」。

楽しい催しを揃えてお待ちしております。

☆八月の「抹茶でおもてなし」は、一四日(土)の午前十時から一四時までです。ひんやりと涼しい資料館で、美味しいお抹茶を堪能してはいかがですか?!



〈自分史とはなんぞや。学生の顔に浮かぶ困惑と興味〉

「仙台陣屋かわら版 第六十六号 平成二十二年八月号」

発行日: 平成二十二年七月二十一日

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場